

学生アルバイトと安全衛生

久永 直見¹⁾
崎野芽久美²⁾

岡田 暁宜¹⁾
吉田 正³⁾

荒武 幸代¹⁾
村松 常司³⁾

馬原 良恵²⁾

はじめに

日本学生支援機構が実施した2004年度の学生生活調査によれば、アルバイトをしている全国の学生は、大学208万人、短大16万人と推定され、昼間部大学生の76.8%、同短大生の71%を占める。愛知教育大学においても、多くの学生がアルバイトに従事しており、学生生活調査の対象項目にもされているが、労働安全衛生の見地からの調査はなされていない。また、学生健康相談等の際に、アルバイトによる傷病の発生を認めることもあった。そこで、著者等は、この点に関する調査を行い、学生アルバイトと安全健康との両立を図るための基礎的情報を得ることとした。

対象と方法

本学の2, 3, 4年生の全員、計2834人を調査対象とし、2006年3月末～4月初めにかけて行われた定期健康診断の際に、筆者らが作成した自記式調査票（別添の資料を参照）を用いて調査を実施した。調査項目は、アルバイト経験、アルバイトの内容、労働時間、睡眠時間、通勤手段、アルバイトに含まれる安全健康影響因子、ケガや病気の発生、学業への影響等とした。

結 果

1. 調査回答者

調査回答者は2503人（男952人、女1551人）で、男女合わせた回答率は88.3%であった。

2. アルバイト就業の有無

男性では、現在就業が85.6%、過去就業が12.0%、元々就業なしが2.4%で、女性では同じ

く83.6%、12.5%、3.9%で、男女間の差は小さかった。

3. アルバイトの内容

家庭教師・塾講師が最も多く、男性45.2%、女性40.2%であった。第2位は飲食店・喫茶店で、男性27.6%、女性37.6%、第3位はコンビニ・スーパーで男性17.1%、女性14.8%であった。他には他の販売店、他の接客業、スポーツジム、工場労働、荷物配送、事務などがあった（図1）。

4. アルバイトの頻度と時間

月就労回数の分布は、図2のとおりで、平均は、男性 12.6 ± 5.6 回、女性 12.0 ± 5.6 回であった。1回の労働時間の平均は、男性 4.9 ± 2.4 時間、女性 5.0 ± 2.6 時間であった（図3）。

就労開始時刻の分布をみると、男性では17時から19時、女性では17時、18時が主であった。また男性では22時開始、女性では9時、10時開始に小さなピークがみられた（図4）。

就労終了時刻の分布は、男女ともに22時が最多で、男性のほうが深夜終了が多い傾向にあった（図5）。

月総労働時間は図6に示したように長短幅広く分布し、平均は、男性 62.4 ± 41.4 時間、女性 59.5 ± 40.9 時間であった。

5. 通勤

通勤手段は、車46.5%、自転車25.1%、バイク9.2%、徒歩6.0%、バス2.3%、その他10.9%であった。通勤時間（上記労働時間には含めず）の平均は、男女とも 0.4 ± 0.4 時間であった。

6. アルバイトの学業への影響

男性では、影響がよくある8.6%、時々ある39.2%、ない52.2%で、女性では同じく、3.4%、40.7%、55.9%であった。

7. アルバイトに含まれる安全健康影響因子

最も高率であったのは長時間立つ（男性52.4%、女性60.3%）で、以下、精神的に疲れる（男性30.3%、女性29.6%）、腰が疲れる（男性26.0%、女性27.9%）、肉体的に疲れる（男性24.2%、女性24.3%）、重い物（男性18.8%、女性24.0%）、

¹⁾ 愛知教育大学保健環境センター

²⁾ 愛知教育大学卒業生

³⁾ 愛知教育大学保健体育学講座

手が疲れる（男性15.1%，女性13.5%），冷蔵・冷凍庫内作業（男性5.3%，女性2.8%）等であった（図7）。

8. アルバイトによるケガや病気

何らかのケガや病気を，男性18.8%，女性17.7%が経験していた。最も高率であったのは切り傷（男性11.8%，女性11.0%）で，以下やけど（男性7.3%，女性6.8%），打撲（男性2.0%，女性2.3%），ぎっくり腰・腰痛（男性2.3%，女性

1.7%），皮膚炎・湿疹（男性1.1%，女性1.4%），交通事故（男性1.2%，女性0.6%），手・腕の筋・関節痛（男性1.1%，女性1.0%），足の筋・関節痛（男性0.8%，女性0.5%），その他（男性0.5%，女性0.6%）であった（図8）。

休業1～3日のケガや病気を男性の0.3%，女性の0.5%，休業4日以上を男性の0.9%，女性の0.3%が経験していた。

図1．最近1年に従事したアルバイト

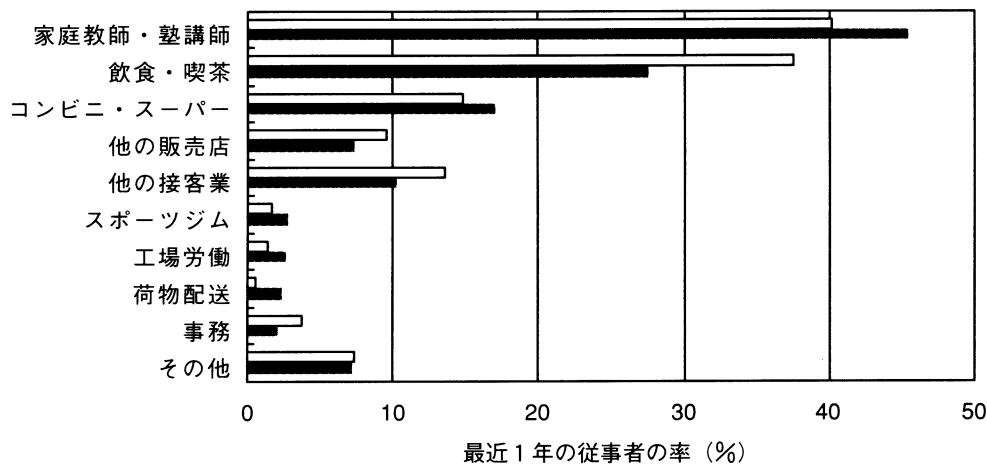


図2．月就労回数の分布

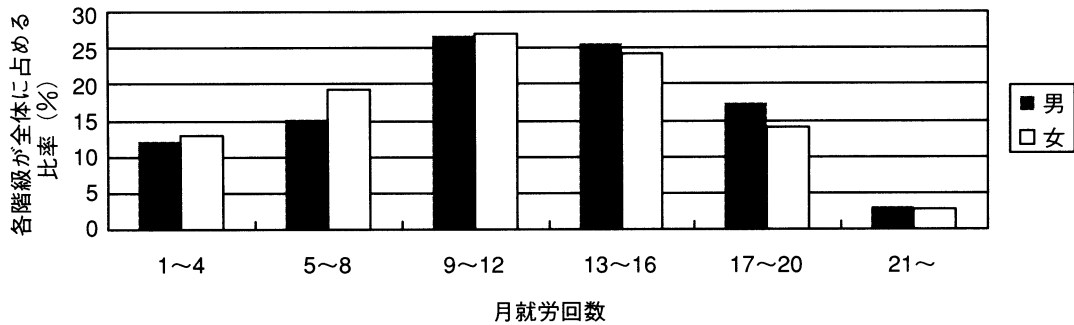
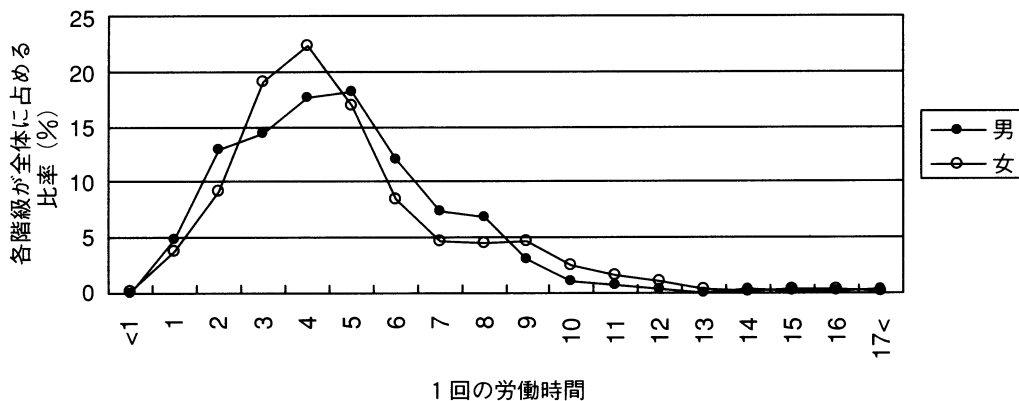


図3．1回の労働時間の分布



考察と結論

学生アルバイトの安全衛生に関し、今回、実施したように全体像を検討した調査の報告は、著者らの検索範囲では見当たらない。今回の調査結果は、学生アルバイトにも様々な危険有害因子が存在しており、それによるケガや病気が少なくないこと、学生アルバイトによるケガや病気を予防するための、学生への教育、雇用主の安全衛生への取り組み等が必要であることを示していると思われる。

今回の調査において、学生の半数弱が、アルバイトが学業によくまたは時々影響すると回答した。今回の調査では、質問項目を少なくし、回答率を高めるために、アルバイトをする理由やアルバイトの賃金は尋ねなかったが、アルバイトが過剰にならないように学生の自覚を高めることも必要と考えられる。

今後、他の大学でもこうした調査が行われ、全国的な状況が明らかにされ、適切な措置が講じられるようになることを期待したい。

図4．就労開始時刻の分布

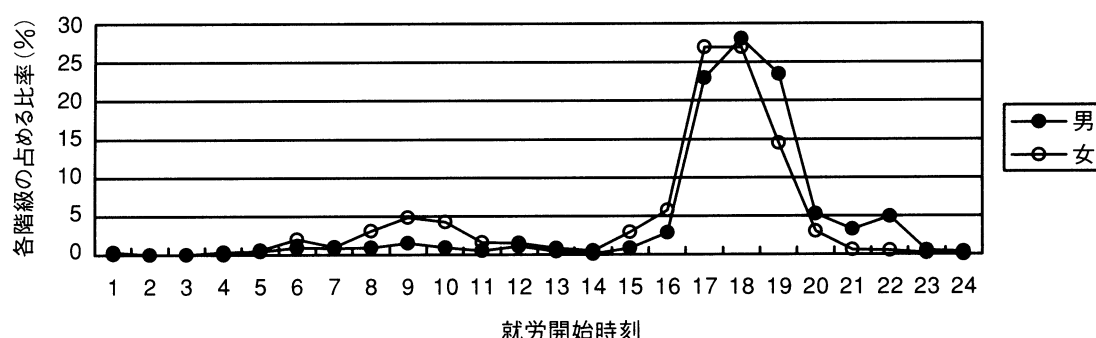


図5．就労終了時刻の分布

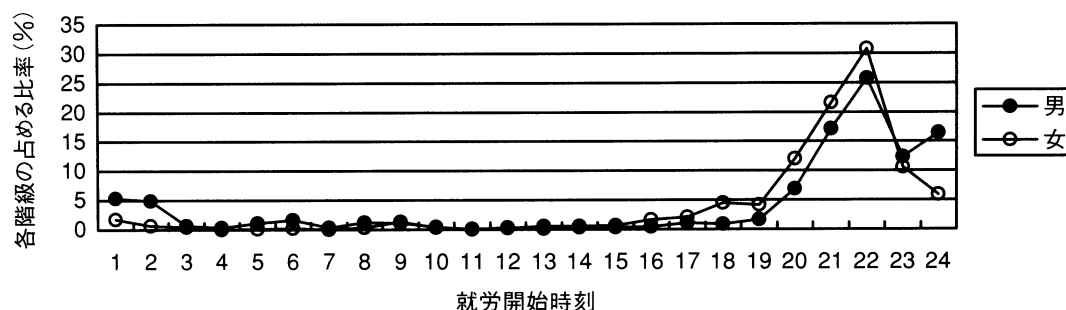


図6．月総労働時間の分布

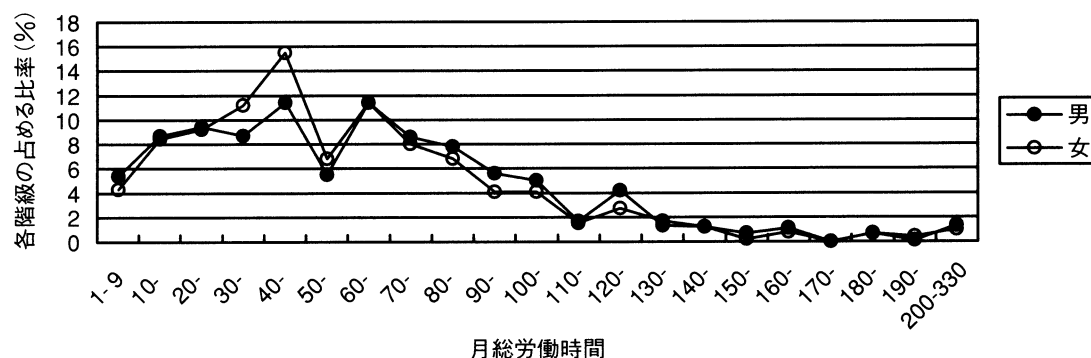


図7. アルバイトに含まれる安全健康影響因子

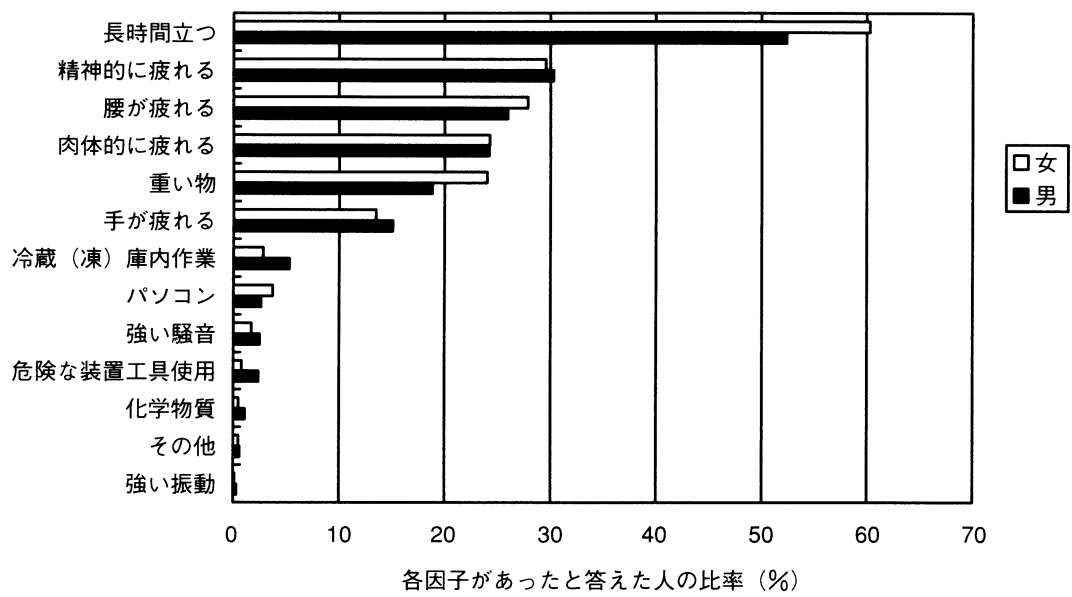
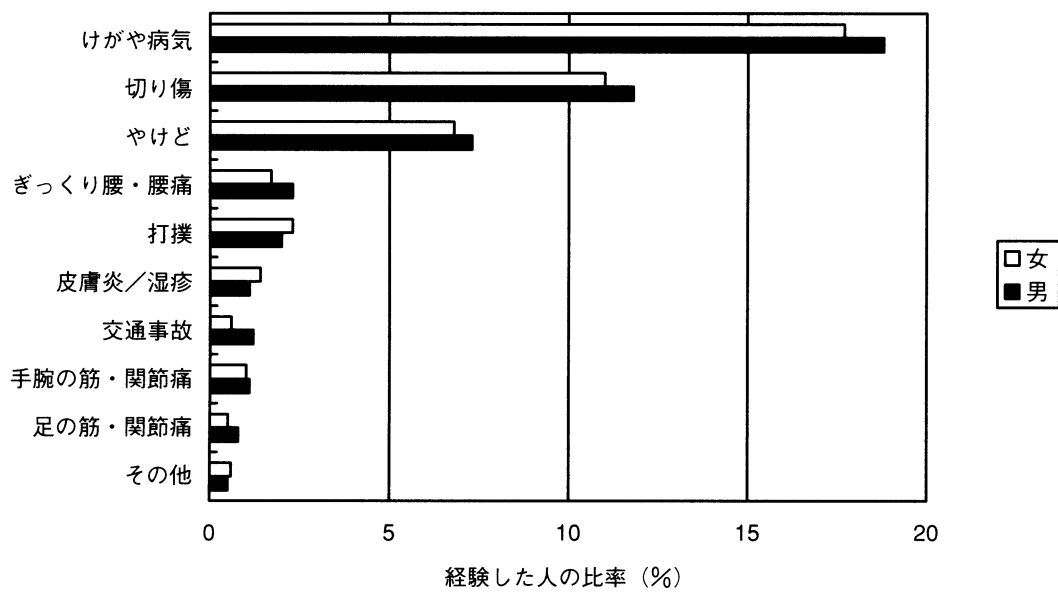


図8. 現在及び過去のアルバイトによるけがや病気



資料. 使用した調査票

アルバイトと安全健康に関する調査

1. 調査の目的は、学生のアルバイトと安全・健康との両立を図るための基礎的情報を得ることです。
 2. あなたの回答を目的外に使うことはありません。
 3. あなたの回答は個人の秘密として厳密に守られます。

学籍番号	男 ・ 女	満 () 歳
------	-------	---------

I. 現住所は？ 1 () 自宅 2 () 寮 3 () 下宿・アパート 4 () その他

II. 平均睡眠時間は？ 週日は () 時間 () 分 休日は () 時間 () 分

III. あなたは、アルバイトの経験がありますか？ 1 () 現在している⇒質問Ⅳへ
 2 () 現在していないが過去にしていた⇒質問Ⅸへ
 3 () 全く経験がない⇒これでおわりです。

IV. 最近1年のアルバイトの内容は？（あてはまるもの全てに○）

1 () 家庭教師・塾講師	2 () コンビニ・スーパー店員 *	3 () *以外の販売店
4 () 飲食店・喫茶店	5 () その他の接客業	6 () スポーツジム
7 () 工場労働	8 () 荷物配送	9 () 自動車運転
10 () 事務作業	11 () その他（具体的に	

V. 最近1年のアルバイトの頻度、時間および通勤手段は？

1 () 定期的または、ほぼ定期的： 月平均 () 回。
 勤務開始は () 時 () 分頃 終了は () 時 () 分頃
 勤務時間複数の方は、次に多い時間帯もお書き下さい。
 勤務開始は () 時 () 分頃 終了は () 時 () 分頃

2 () 不定期または一時的： 年間 () 日。

1回の往復通勤時間は？ () 分

通勤手段は？ 1 () バイク 2 () 車 3 () 自転車 4 () バス 5 () 徒歩 6 () その他

VI. 最近1年のアルバイトについて、あてはまる項目すべてに○をつけてください。

1 () 長時間立っている	2 () 重いものを持つ	3 () 手が疲れる
4 () 腰が疲れる	5 () 冷蔵（凍）庫内の仕事	6 () 危険な装置・工具を使う
7 () 強い騒音にさらされる	8 () 強い振動にさらされる	9 () 化学物質を扱う
10 () 精神的に疲れる	11 () 肉体的に疲れる	12 () パソコン作業
13 () その他の危険有害な仕事 ()		

VII. クラブ活動をしていますか？ 1 () いない 2 () いる： () スポーツ系 () 非スポーツ系

VIII. アルバイトの学業への影響は？ 1 () ない 2 () 時々ある 3 () よくある

IX. 現在および過去のアルバイトでけがや病気をしたことは？ 1 () ない 2 () ある
 「ある」と答えた方は、該当する項目全てに○をつけて下さい。

1 () 交通事故（通勤途上含む）	2 () 切り傷	3 () 打撲	4 () ぎっくり腰・腰痛
5 () 手腕の筋・関節痛	6 () 足の筋・関節痛	7 () やけど	8 () 皮膚炎/湿疹
9 () その他のけがや病気 ()			
10 () 休業1～3日	11 () 休業4日以上		

休業日数は大学やバイトを休んだ日数。例えば週1回のバイトでケガをし3日学校に来れなければ休業3日。